第３４回　ＣＣＮｅｔ北勢局放送番組審議会　議事録

１．日　時　　２０２５年１１月１７日（月）　９：３０～１１：３０

２．場　所　　ＣＣＮｅｔ株式会社 北勢局（三重県三重郡川越町豊田２４１−１）

３．出席者　　委員長　安藤　邦晃　（三重県商工会連合会 会長）
委員　西田　喜久子（多度町ボランティア連絡協議会 会長）
平野　淳子　（多度地区市民センター 所長）
松橋　妙子　（朝日町老人クラブ連合会 理事）
吉野　昭　（川越町役場企画情報課 課長）

事務局　ＣＣＮｅｔ株式会社
水野　人志　（北勢局 局長）
渋川　和憲　（北勢局編成制作チーム チーム長）
冨安　亮太　（北勢局編成制作チーム）
假屋　祐貴　（北勢局編成制作チーム）
渡邉　瑞生　（北勢局編成制作チーム）

４．議題
（１）２０２５年度放送編成実績について
（２）２０２６年度放送編成計画について

５．議事（要旨）
（１）２０２５年度放送編成実績について
事務局より説明を行った。

・ご意見、ご質問

（吉野委員）地域情報番組は、転入してきた若い方々に対して、地域のことを知り、愛着をもってもらえる機会となるのでありがたい。

（西田委員）「ウィークリーかわごえ」は、地域全体の子どもたちの様子や声が記録され、成長記録にもなるところに意義を感じた。
「ちょっとお時間いただけますか？」は、冨安キャスターが子どもたちと一緒に番組をつくったという印象を受けた。
これほどまで子どもたちの心を掴んでいるところに、継続して地域で取材をしている成果を感じた。
他の地域の人も、この番組を見たら取材してもらいたいと思うのではないか。
「誰が何と言おうと　－多度祭上げ馬神事 変革から1年－」は、夫と家で見た。夫も「非常に良い番組をつくっていただいた」と喜んでいた。
祭りの関係者が正直な気持ちを話されているところにこの番組の意義があったと思う。アーカイブとしてまた放送してほしい。

（平野委員）地域に密着して放送してもらえるのは、ＣＣＮｅｔならではだと思う。
「ちょっとお時間いただけますか？」では、今年度で閉校する多度北小学校の子どもたちを取り上げていたが、同じく今年度で閉校する他の小学校の子どもたちの姿も記録として残してほしい。
多度祭については、これまであった自治会の数が半分ほどになり、騎手になる子がいないという現状がある。
今後も引き継いでほしいお祭りであるため、多くの人の目に触れる番組という形で記録に残してもらえるのはありがたい。
地域情報番組は、どの年代も「あのときはこういう感じだった」と振り返ることができる番組にもなったらいいのではないか。

（松橋委員）15年ほど前に引っ越してきたタイミングで、はじめてケーブルテレビの番組に触れた。地域の情報を知ることができて役に立っているので、今後も続けてほしい。
「誰が何と言おうと　－多度祭上げ馬神事 変革から1年－」は家で見た。祭りに向けた準備の様子なども紹介されていたので、この番組を見てもらえれば、多度祭を批判していた人も賛成するのではないか。

（安藤委員長）「誰が何と言おうと　－多度祭上げ馬神事 変革から1年－」は、民放のテレビ局の番組と変わらないクオリティーで驚いた。
また、「ウィークリーかわごえ」は、地域に密着したとても良い番組だと思う。番組の内容は、どのような形で周知しているのか。

（事務局）イベント当日に配布する放送チラシやホームページ等で周知している。

（２）２０２６年度放送編成計画について
事務局より説明を行った。

・ご意見、ご質問
（西田委員）「みどりのジャージ」の「みどり」にはどのような意味があるのか。
（事務局）番組を制作している東名局のエリアのひとつである「名古屋市緑区」が番組タイトルの由来となっている。

（吉野委員）制作番組のターゲットはどの年代なのか。
（事務局）地域の情報をお届けして、地域活性化に貢献したいという基本的な姿勢がある。明確なターゲットを絞って制作しているわけではない。
（吉野委員）子どもたちだけではなく、高齢者を含めた幅広い世代を撮影してもらえるとありがたい。
（事務局）今後の番組づくりの参考とさせていただく。

（安藤委員長）新聞で掲載されているような形で、スポーツ少年団の試合の結果を定期的に放送してほしい。
（事務局）今後の番組づくりの参考とさせていただく。

以上